「子育て世代のための　快適移住マニュアル」　メディア掲載　一覧

知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい

金丸知弘　著　　出版社名　誠文堂新光社

発売予定日　2022 年 5 月 11 日　　予定税込価格　1,760 円

金丸知弘／著

978-4-416-52210-3（ 9784416522103 ）

定価：1,760円（1,600円＋税）

判型：四六

現在、絶賛発売中。

全国書店ネットワーク　e-hon

https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refBook=978-4-416-52210-3

誠文堂新光社　https://honno.info/kkan/card.html?isbn=9784416522103

楽天ブックス　https://books.rakuten.co.jp/rb/17092144/

Ａｍａｚｏｎ　https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/441652210X/honnoinfo-22/

金丸知弘（かなまる・ともひろ）

1998 年生まれ。東京都出身。和歌山県田辺市龍神村に移住。食品加工・販売「CONSERVA」、1 棟貸しのゲストハウス「小家御殿」オーナー。フリマアプリ活用アドバイザー。国内のリストランテでｲﾀﾘｱ料理の基本を学び、北ｲﾀﾘｱ・ピエモンテの料理専門機関「ｲﾁﾌ　icifi」で専門コースに留学。その後、ﾐｼｭﾗﾝ一つ星ﾘｽﾄﾗﾝﾃ　ｸﾞｲｰﾄﾞ・ﾀﾞ・ｺｽﾃｨﾘｵｰﾚ（Ristorante Guido da Costigliole）で研修を受け、帰国後、東京ステーションホテル「エノテカノリーオ　（Enoteca NORIO）」に勤務。２０１６年歌山県田辺市に家族で移住。

金丸知弘 メディア掲載 リスト 一覧

●4 月１０日 大正大学出版 第８０号 地域人 「あがら和歌山県」
●4 月 10 日 金融公庫機関紙「調査月報」２０２２年１６３号４で出してもらう
tyousa_gttupou_2204.pdf (jfc.go.jp)
●4 月 22 日 お昼のラジオ和歌山放送キヨちゃんのコーナーで出演 著書「子育て世代のための 快適移住マニュアル」を紹介してもらう
https://ameblo.jp/kiyochan-wbs/entry-12738826941.html
●5 月 10 日 YouTube 丸野清の「まるッと徳之島ちゃんねる」で出演 移住の話をして「子育て世代のための 快適移住マニュアル」を紹介してもらう
●5 月 11 日 YouTube 丸野清の「まるッと徳之島ちゃんねる」第二弾で出演 移住の話をして「子育て世代のための 快適移住マニュアル」を紹介してもらう
ＹｏｕＴｕｂｅ金丸知弘移住を語る。配信中。
https://www.youtube.com/watch?v=jAEXACbW84k（パート１）
https://www.youtube.com/watch?v=nurxeQwnX0w（パート２）
「まるっと徳之島ちゃんねる」（丸野清さん番組）
●「ＴＵＲＮＳ」（第一ブログレス）（第５２号）https://turns.jp/ 書評欄
●インターネットジャーナル㈱ フードボイス（fv1.jp）
https://fv1.jp/81677/ 書評
●金丸弘美 PDF
http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/data/yotei/yotei1104.pdf
●A-Girl Creative/農と食女性協会/（公）日本フードスペシャリスト協会
伊藤淳子ブログ https://ameblo.jp/shibuya1/entry-12745172922.html
●5 月 11 日 ラジオ和歌山放送 夕方 17 時 17 分から wbs ニュース 5 の田辺リポートのコーナーで「子育て世代のための 快適移住マニュアル」を紹介してもらう
●5 月 11 日 外国人料理専門学校イチフのホームページで掲載されて紹介してもらう
https://www.icif-japan.com/graduate.html
●ライターズネットワーク・ホームページ
http://www.writers-net.com/item/248
●5 月 20 日 NHK 和歌山テレビ「ぎゅぎゅっと和歌山」小野寺キャスターのコーナーで龍神村での料理体験で出演。うちの一棟貸し宿小家御殿を紹介してもらう。
●5 月 31 日 WAN（ウーメンズアクションネットワーク＝上野千鶴子理事長）
「女の本屋」で紹介。https://wan.or.jp/article/show/10091#gsc.tab=0
●6 月 1 日 「月刊 NOSAI」２０２２年６月号 （公益社団法人全国農業共済協会＝ＮＯＳＡＩ協会）「自著自薦」1 ページ
「子育て世代のための 快適移住マニュアル」紹介してもらう

●6 月 4 日 紀伊民報で「子育て世代のための 快適移住マニュアル」紹介してもらう
●6 月 10 日 学校の食事研究会「月刊学校の食事」で「子育て世代のための 快適移住マニュアル」紹介してもらう
●6 月１０日 「学校給食」7 月号で書評。
●6 月 15 日 「日刊ゲンダイ」書評
●「食料新聞」6 月１１日号
●6 月２１日 朝５時半からのラジオ「生島ヒロシのおはよう日本一直線」でゲスト出演子育て世代のための 快適移住マニュアル」紹介してもらう
●「社会新報」6 月２９日号
●7 月 15 日　　富山テレビニュース・ライブ BBT で長男・金丸知弘と著作「子育て世代のための快適移住マニュアル」が紹介。
●「地域人」「神奈川県」特集　書評で紹介
●「NPO ふるさと回帰支援センター」地方応援 WEB マガジンで特集。
https://www.furusato-web.jp/iju/wakayama-tanabe/
東京のイタリアンコックから、和歌山の秘境・龍神での起業へ。転身のきっかけと、バックアップとは 食品加工販売「CONSERVA」オーナー 金丸 知弘さん ｜ 移住事例紹介 ｜ 地方移住応援 web マガジン「Furusato フルサト」（furusato-web.jp）

「調査月報」（日本政策金融公庫）２０２２年４月号

町おこしと移住創業

第6回 和歌山県田辺市龍神村

里山の暮らしを伝え残す

総合研究所 主席研究員　桑本 香梨

日本の人口は減り続け、2050年代には1億人を切ると推計されている。現在のペースで少子高齢化が進めば、地域の担い手はますますいなくなる。行政がすべてを補完していくことは難しく、住民たち自らが地域のために行動することが求められる。

本連載の最終回で紹介する和歌山県田辺市龍神村では、住民と移住者がさまざまなかたちで協力しながら、地域の課題を解決する自治の道を探っている。

村の一員になる

梅樹庵　竹内 雅一さん

レストラン「梅樹庵」のオーナー、竹内雅一さんが龍神村に移り住んだのは1988年のことである。まだ国道も通っていなかった当時、細い山道をひたすらバスに揺られてようやくたどりついた場所だったが、澄んだ空気、おいしい水、そして緑深き山々に囲まれた風景に心ひかれた。

竹内さんは、神奈川県内に31店舗を構えるレストランで総料理長を務めていたが、体調を崩して38歳の時に退職した。万が一働けなくなった場合にも妻と4人の子どもたちが食べていけるようにと、以前、自身が開発した梅ドレッシングで開業しようと思い立った。工房とレシピを家族に引き継げば、彼らに生計を立てるすべを残すことができると考えたからである。

材料に使う梅を調達する和歌山県みなべ町に移住しようと場所を探していたときに、龍神村のことを知り訪れた。村には、行政が運営する国際芸術村アートセンターがあった。当時、村を訪れ芸術活動をする人たちに無償で貸し出していた。竹内さんは、そこに仮滞在しながら地元の居酒屋に通い、村の住民と交流した。仲良くなった人に紹介された空き地を手に入れ、妻と整地してドレッシング工房を建てた。

自宅の近くの工房でつくり始めた梅ドレッシングは大

手デパートの目に留まり、すぐに人気商品となった。ドレッシングは梅干しを塩抜きして使い、添加物は一切入れない。最初は、みなべ町から仕入れていたが、今は村の梅干しを使っている。地元の祭りに出店したときに知り合った人が漬けているものである。村やその周辺には、ユズやクリ、サトイモなど豊富な食材があり、それらを使ったジャムもつくるようになった。忙しくなりすぎたため、竹内さんは1日のドレッシングの生産量を150本と決めて、それ以上の注文は翌日以降に回すことにした。体調はすっかり良くなった。

事業はスムーズに軌道に乗った。同時に、竹内さんは村のコミュニティに溶け込むために、積極的に地域の活動に参加した。村には古くから受け継がれるさまざまな慣習がある。特徴的なものの一つが「葬式ごしらえ」である。誰かが亡くなると、皆が集まってご遺体を納めた棺を装飾したり、葬列に加わる遺族の身につけるものをこしらえたり、墓を掘ったりする。竹内さんは、母親の葬儀も村で執り行った。

ほかにも、川掃除や草むしり、ごみ拾いといった地域の活動にも参加した。わからないことは、子どもたちが通う学校の親同士で話をするなかで教えてもらった。こうした積み重ねが、当時珍しかったヨソモノに対する住民たちの心の壁を崩していった。「地域でつくりあげてきたものを会得しなければ、その土地の住民になれない」と竹内さんは考える。

村での暮らしが落ち着いてきた1995年には、ドレッシング工房の横に古民家風のカフェをオープンした。当初は訪れる人にコーヒーを出していたが、「ケーキも食べたい」「食事も出したらどうか」「ベジタリアン向けの食事をつくってほしい」といった要望に応じているうちに、おいしいカフェとして村の外の人からも知られるようになっていった。今では、冬の時期になるとジビエを使ったフレンチのコースも提供している。

古民家風の梅樹庵で出迎えてくれる竹内夫妻

地域の課題に向き合う人材を育てる

竹内さんは、後に続く移住者、移住創業者たちにとって開拓者のような存在にもなった。今では、大半の住民が村に移住する人やその事業に対して理解を示し協力してくれる。2016年に村に移住して食品加工店を創業し、現在はゲストハウスも運営する金丸知弘さんも、村の人たちにすんなりと受け入れられたのは、竹内さんのこれまでの道のりがあってこそのことだと話す。

CONSERVA／小家御殿　金丸 知弘さん

イタリアに留学して料理を勉強した金丸さんは、実家がある東京でイタリアンレストランに就職した。幼少期を鹿児島県の徳之島で過ごした経験から地方で暮らしたいと考えており、移住相談のセミナーに参加した。

そこで、熊神村に移住して映像制作の仕事をしている男性と出会う。話を聞き村に魅力を感じた金丸さんは、男性に村での家賃や光熱費、ガソリン代などの生活に必要なコストについて細かく教えてもらった。交通事情も調べた。大阪へは車で2、3時間、東京へは南紀白浜空港から飛行機で1時間ほどあれば行ける。道路網が整備されて田辺市内へは車で40分ほどで行けるようになっ

ていたし、通信販売も使えるので買い物に不便はない。娘を通わせる学校の場所も確認し、移住しても家族3人が不自由なく暮らせるとの結論に至った。

移住後は、料理の腕を生かしてジャムなどの瓶詰めをつくって販売しようと計画した。村は温暖できさまざまな果物が栽培されている。日本三美人の湯の一つで、1300年前に弘法大師が開いたと伝えられる龍神温泉があり、観光客に向けた土産品の需要が見込める。瓶詰めは常温で保存できるので、旅館や店に置いてもらいやすいし、在庫管理にも適している。村が主催する現地の見学ツアーに参加し、飲食店を営む人に材料の仕入れルートや仕入れ相場を聞くなどして、採算がとれるかも確認した。

村に移住し創作活動を行う人に市が貸し出すアトリエ龍神の家に空きが出て入居契約ができたことや、県が交付する若者向けの移住補助金も後押しとなった。2016年4月に家族とともに移り住み、12月には住居の1階で食品加工・販売店「CONSERVA（コンセルバ）」を創業した。十分に検討したうえでの移住創業だったから不安はなかった。

もう一つ、金丸さんが活用したものが、田辺市が主催する「たなべ未来創造塾」である。2005年、村は田辺市、中辺路町（なかへじちょう）、大塔村（おおとうむら）、本宮町（ほんぐうちょう）と合併して田辺市龍神村となっていた。ちなみに、合併で新しい市が生まれると行政組織としての村は消滅するのだが、住所表記として龍神村の名称は残された。2014年、市は地方創生に取り組む専任部署としてたなべ営業室を設置し、その2年後に創造塾を開始した。2015年当時の市の人口は7万4,770人で、1985年の8万8,263人から15.3％減っている。少子高齢化が進むなかで、「地域を良くし、かつ地元企業が利益を得られるような」事業を立ち上げる人材を育成しようという趣旨で始められた。

開講に当たり、企画から携わった高山大学地域連携推進機構のほか、地元の金融機関や商工関係団体など産学官金が連携してサポートする体制を整えた。プログラムは、経営の基礎知識の習得からケーススタディによる演習、ビジネスプランの構築と発表など、全14回で構成される。演習では、地域の課題や資源について有識者の話を聞きながら求められるビジネスを考え、話し合う。

異業種の人材が刺激し合うことでアイデアが生まれやすくなるように、当初は市の担当者が地域のキーマンにヒアリングするなどして塾生の候補を探し、声をかけていった。塾生の中心は、地元で家業を継いだ30歳代の若手経営者である。ほかにも移住創業した人や、将来起業したいと考えている人が受講する。いずれも、新しいことにチャレンジして地元を盛り立てたいという意欲のある人たちである。一人ひとりにサポートが行き届くように、塾生は1期当たり12人ぐらいまでとしている。

塾生は修了後も講座に参加できるため、期をまたいだ交流も盛んである。一緒にプロジェクトを立ち上げる人もいる。例えば、ある塾生は木材の食害対策を課題にした。林業従事者の減少による放置林の増加が原因でカミキリ虫が増殖し、食害を受けた木材の商品価値が落ちて林業関係者がますます疲弊するという悪循環が起きていた。デザイナーや家具店の後継者など、1・2期生数人が対策を話し合い始めた事業が、虫食い箇所を隠すのではなくデザインとして生かした家具の製作販売であった。

金丸さんは、知り合いを通じて創造塾に誘われ1期生となった。塾に通うことで、移住してすぐに同世代の経営者仲間をつくることができたほか、顔が広がり、イベントのときのケータリングの仕事もCONSERVAとして受けるようになった。さらに、移住前から計画していたゲストハウスを始める際には、空き家の活用をテーマに取り組む2期生で、土地家屋調査士の男性からアドバイスをもらった。

金丸さんが2019年に始めたゲストハウスは、平屋建ての民家を改修して一棟貸しの宿にしたものである。CONSERVAから車で1分ほどの場所にある。地名をとっ

て「小家御殿」と名付けた。食事の提供などは一切行わないので、さほど手間はかからない。すぐ近くにある河原でバーベキューができ、コロナ下には密を避けて遊べるとファミリー層の予約が相次いだ。CONSERVAと小家御殿、二つの事業を並行させることで、新型ウイルスの影響を抑えることができた。

地域の素材にこだわる

菓子工房HOCCO　榎本大志さん、恵さん

創造塾は2020年に5期目を迎え、村からもこれまでに5人が入塾している。さいたま市から移住して「菓子工房HOCCO」を営む榎本大志さんもその一人である。健康のために空気のきれいな場所で暮らそうと、妻の恵さんと村に移り住み、2020年に店を構えた。村では初めてのケーキ店であり、また、住まいの手配や移住の手続きを担当してくれた市の職員が近隣の住民に話をしてくれたこともあって、二人の店は開店前から地元の人たちに歓迎された。ある旅館のスタッフからは、宿泊客の誕生日に用意するケーキを村の外まで買いに行かなくてよくなったと喜ばれた。

菓子をつくるのは恵さんである。洋菓子店でパティシエとして勤務した後、自身の腎臓病経験を生かして、埼玉の自宅で主に腎臓病や糖尿病患者向けの低たんぱくのケーキやクッキーを通信販売していた。移住後は、低たんぱくスイーツの通信販売を続けつつ、カフェを併設した店頭で一般向けの菓子を販売する。

一方の大志さんは、埼玉の建設会社を45歳で退職する。菓子づくりとは無縁だったから、移住後はもっぱら店の経営戦略を担当している。開業に当たっては、商工会の担当者に教えてもらいながら、県や市の補助金を申請し、開業届を作成した。村の外からの来客数を増やす方法を模索するなかで、市役所から創造塾のことを教えられて参加した。創造塾では、農園の若手経営者や市の中心部でパン屋を始めた女性など、さまざまな分野で活躍する人たちと交流した。傷がついて販売できなくなった果物を引き受けて菓子の材料にしたり、互いの商品を店頭に置いたりと、商品のラインアップの増加や販路の開拓につなげることができた。

山のなかの小家御殿

地元の食材を使った商品開発にも積極的に取り組む。村の養鶏場で育てられた「龍神コッコ」の卵を使ったプリンは、地方紙でも紹介される評判の一品である。村で採れた木の実や果物を使った焼き菓子をつくり、特産品として販売することも計画している。工房を増築し、いずれはスタッフを雇いたいと考えている。榎本さん夫妻のスイーツを中心に小さな経済循環が起きている。

地元を好きになる

村に移住して創業する人は少しずつ増えている。美容師、デザイナー、木彫刻師など業種もさまざまである。彼らの多くは地域の活動に参加することに積極的で、住民たちも刺激を受けている。町おこしのために日々奔走している村出身の小川さださんも、そうした一人である。「竹内さんとの出会いがなければ村のことを大嫌いなままだった」と振り返る。

龍神はーと　小川 さだきん

小川さんは、大阪で結婚して子育てをしていたが、兼業農家を営む両親に頼まれて家族で村に戻った。幼い頃からピアノ教室もない村のことが恥ずかしく、Uターンしてからも地元には何もないとこぼすばかりだった。しかし、同じころに村にやってきた竹内さんから、村の美しい自然は誇るべき宝だと力説されるうちに、地元のことをこれまでとは違う視点で見るようになっていた。

竹内さんは、小川さんのように地元の魅力に気づいていない住民たちの意識を変えたいと考えていた。大人が村のことを好きにならなければ、その子どもが村を好きになるはずがない。出て行った子どもたちもふるさとを面白い、帰りたいと思えるように、まず大人が村を楽しもう。そう呼びかけて、「龍神風土's研究会」を立ち上げた。風土とフーズを掛け合わせた名前のとおり、村の風習や料理の起源を調べるサークルのような集まりだった。

例えば、村には祝いの席で食べられる押し寿司がある。調べてみると、奈良県十津川村に隣接した北側の地域ではサンマが、南側、西側にいくとサバやカマスがよく使われていた。十津川村の郷土料理、サンマ寿司が伝わり、それが南下するにつれて紀伊水道で捕れる魚に変わっていったと考えられた。雑煮も、場所によって白みそだったりすましだったり、丸餅と角餅で分かれるなど、村に長く暮らす人でも知らないことが多かった。調べた結果はポスターにまとめて、地元で毎年開かれる祭りで発表した。研究会には、多いときは小学生からお年寄りまで90人以上が参加し、皆で真剣に遊んだ。

小川さんは、研究会を通じて村の歴史や伝統、風景に愛着をもつようになっていた。村の魅力を子どもや村の外の人たちにも伝え残したい。竹内さんに背中を押され、2002年、村の女性たちと「龍神はーと」を結成する。最初は、休みの日に路上にテーブルを出して、畑で育てた野菜やそれらの加工品などを観光客向けに販売していた。評判は上々で、5年後には常設店を構えた。現在、30人ほどが一緒に活動している。

人気の商品は村に伝わる柚べしである。以前は30軒ほどが生産していたが、現在手がけるのは龍神はーとのみである。手づくりしたみそを1年間寝かせた後、半分に切り果肉をくり抜いたユズに詰める。手間がかかるが、廃れさせてはいけないという思いでつくり続けている。ほかにも、村に自生するクロモジを使った化粧水や、村で栽培した山椒やゴマを使った商品など、有識者のアドバイスも受けながらラインアップを広げている。

こうした活動が行政の目に留まり、龍神岳と護摩壇山を望む標高1,306メートルのごまさんスカイタワーの運営を任されるなど、今や小川さんは大忙しである。数年前には息子の直さんが活動に加わった。龍神はーとで働きたいと村にやってきた女性もいる。村の魅力は次世代に少しずつ、だが着実に浸透している。

地域のために自発的に動く

龍神風土's研究会は村の合併を機に休会し、メンバーの一部がNPO法人ええとこねっと龍神村として活動している。市の中心部から離れた村だから、合併後は行政の目が行き届きにくくなるだろう。行政に頼るだけではなく、村の課題に自分事として向き合う体制をつくらなければならない。そんな思いで、竹内さんや村役場を退職した後藤昇さんが中心となって運営している。

活動の一つに休耕地の活用がある。村では兼業農家が多かったが、高齢化に伴い耕作をやめる人が増えていた。畑を放置したままにすると、雑草が生い茂りイノシシなどがすみついて民家を襲う危険も増す。そこで、休耕地を整地してそばの種をまいた。活動を知った住民から次々に依頼があり、そば畑は増えていった。2018年には、閉園した保育園を改修して「そばと農園　和わく」

をオープン。栽培したそばを製粉して打った龍神そばを提供する。そばの花が咲く10月には「蕎麦の花祭り」を開催して、後藤さんたちが自ら地元の川で捕れたアユやシイタケを焼いて出す。

このシイタケも村で育てられたものである。特産品をつくろうと、地元の建設会社㈱伊藤組の3代目である伊藤研治さんが、2008年に知人と廃校を活用して栽培を始めた。校庭には20基のハウスが並び、繁忙期は地元の主婦たちが作業に専念する。肉厚で大きな「龍神マッシュ」は進物用としても重宝されている。

伊藤さんが現在会長を務める㈱伊藤組は特殊土木工事を得意とし、西日本各地へ赴いて仕事を請け負う。よその地域を通して村の景観を見つめ直すと、道路の斜面に投げ捨てられた空き缶などのごみが気になるようになった。伊藤さんは従業員に声をかけて、村の清掃活動を始めた。それから30年以上活動を続けるなかで、自身や従業員の村への愛着は強くなったと実感する。

村への思いが原動力となり、龍神マッシュの商品化につながった。2018年には「龍の里づくり委員会」を発足させた。住民や移住者が集まり、村の資源を生かした町おこしの策を話し合う。伊藤さんは、移住者による外からの視点を尊重する。現在進行中の「幻の熊野古道～奥辺路プロジェクト」も、村に移住した山林インストラクターの提案で始まった。高野山から熊野大社へ続く道だったと言い伝えられる未舗装の山道を、トレッキングコースにするために整備している。

経営者としての視点も忘れない。これまでも住民の発案でいろいろな会が発足していたが、予算が続かずに解消していた。熱い思いだけで町おこしはできないと考える伊藤さんは、委員会とは別に㈱龍神村を組織した。委員会で出たアイデアを、利益を生むかたちで実行して村に還元し、持続させるための部隊である。主に、移住者を含む60歳前後の経営者層で構成する。

休耕地で育てたそばを収穫

2020年には、委員会の主催で「龍の造形大賞」を立ち上げた。村の名前にかけて龍のフィギュアを全国から募集し、村の知名度を上げようというものである。㈱龍神村は、大阪のフィギュア制作会社の協力を取りつけたほか、役場にかけあって県知事賞や市長賞を設けた。第1回は137点もの作品が応募された。

行政や住民、移住者によってさまざまな活動が多層的に起きているが、皆思いは同じである。地域のことが好きだからこそ、何かをしたいという原動力が生まれ、困難を乗り越える力もつく。ええとこねっと龍神村では、有償運送事業の実現に向けて準備を進めている。路線バスは本数が少なく、一方で運転免許証を返納するお年寄りが増えている。将来の自分たちの移動手段を確保するためにも、今取り組みを始めなければ間に合わない。

運転手は地元で募る。ええとこねっと龍神村のメンバーで村に移住したイラストレーターが、マスコット「あしがるりゅうちゃん」をつくり、送迎の際はそのステッカーを各自の車に貼る予定である。メンバーの確保や運転前のアルコールチェックなどクリアすべき課題は多いが、計画を説明する後藤さんの目は生き生きと輝いていた。次世代に誇りをもってたすきをつなげるように一人ひとりが自ら動くことで、地域は形づくられていくのだと教えられた。

和歌山放送田辺支局「きよちゃんブログ」２０２２年４月２２日

ブログトップ　記事一覧　画像一覧

会えたぁ～　これって

時間を忘れて

2022-04-22 16:25:00
テーマ：ブログ

今日の【お花あげます！】

に、ご登場いただいた能神の

金丸知弘さん。

５月１１日に本を出版するということでスタジオにお入りいただきました。

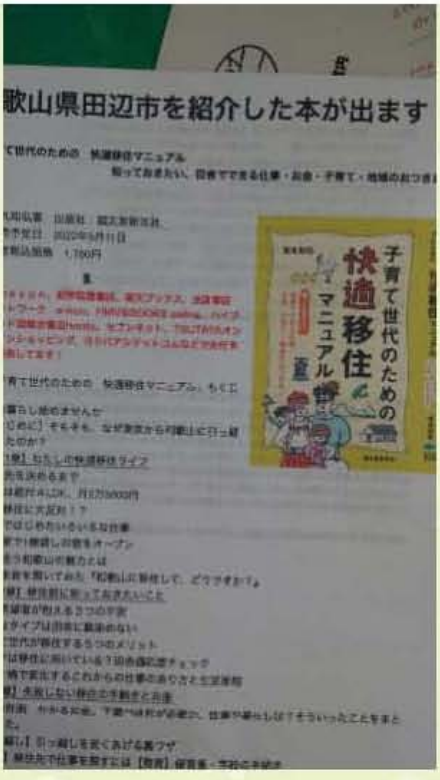
世田谷出身の金丸さん。

地方に行きたいと最初は熊本を考えていたところ義理のお母さんに猛反対を受けて
有楽町にある移住センターにふらりと。

そこで和歌山の職員の方に声をかけられて
和歌山も悪くないかなと。

今では、義理のお母さんも１年間滞在するくらいにまで能神がお気に入りの場所になったと。

まぁ、
軽快なお話しぶりについつい時間を忘れてしまうくらいに。



本を出版されたお話しにお伺い。

☆●ＹｏｕＴｕｂｅ金丸知弘移住を語る。

https://www.youtube.com/watch?v=jAEXACbW84k（パート１）

https://www.youtube.com/watch?v=nurxeQwnX0w（パート２）

「まるっと徳之島ちゃんねる」（丸野清さん番組）

#徳之島 #奄美群島 #移住

移住したい方 必見 金丸知弘

#徳之島 #奄美群島 #移住

移住する前に必見!! 金丸知弘のワンポイントアドバイス

●イタリアのプロの料理学校 ICEF ホームページ。Italian Culinary Institute for Foreigners
https://www.icif-japan.com/graduate.htm

I01 東京から和歌山への移住という分かれ道を選択させたイタリアでの経験

金丸 知弘（2012 年マスター研修参加）

私が ICIF へ行きたかった一番の要因は、イタリアの政策や経済などに強い興味があったからです。ICIF という学校のあり方や成り立ちにも大変興味がありました。
イタリアは日本と国土の形が似ており、四季もあり、海もあり、山間部での農業も行われています。

一見して経済は日本と比べるとうまくいっていないように感じられますが、国連世界観光機関（UNWTO）によれば、海外からのインバウンドは世界第 5 位です（2019 年）。日本よりも国土が小さく、人口も半分くらいしかいないのにです。ちなみに日本は 12 位です。

輸出超過で、イタリアで生産された農産品や食料加工品は、国内で消費される量より国外へ輸出される方が多いのです。イタリアの食品やお酒は今や日本のどこのスーパーに行っても買うことができます。一方、日本の品物は同じように海外で並んでいたりすることはごく限られています。

これらの裏側にはどんな取り組みや政策があるのか強い興味がありました。
イタリアは観光を軸とする経済に強く、そして回転していて、それらを下支えする取り組みが大変魅力的です。ICIF もイタリアという国の観光経済や食料加工品、ワイン等の輸出を側面から手助けする取り組みの一つとも言えます。

もう一つ私がイタリアへ行って学びたかったことは田舎の扱い方です。
イタリアは観光地でもない、電車やバスなどの交通インフラも整っておらず商店も少ない、そういった何もない“ただの田舎”を上手に使って活かし、その環境を理解しうまく利用して集客につながるビジネスをすることに長けています。そのための商材の一つが料理です。

地産地消で地域の食材を使い、“ただの田舎”に足を運びたくなるような要因と魅力をもたらし、その土地に行かなければ食べられない郷土色満載の料理やサービスで集客に努めていると実感させられました。

私が ICIF から紹介してもらい現場実習を行いましたリストランテ「Guido da Costigliole」も、もうびっくりするくらい周りに何もないところでしたが、大勢の根強いファンがおられ毎晩遠路からのお客様が来られる魅力的なお店でした。

私もそういった学びを経て、2016 年に東京目黒から和歌山県の龍神村に移住しました。
兼ねてより田舎に移住し、田舎で商売がしたいと考えていた私は、和歌山の環境がとても気に入ったのです。

そのことについてこの度、誠文堂新光社から本を出版しました。
『子育て世代のための　快適移住マニュアル：知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい』です。
是非ともご一読ください。

☆●ライターズネットワーク・ホームページ http://www.writers-net.com/item/248

ライターズネットワーク

Writers Network

HOME » 会員活動紹介 » 金丸より「田舎暮らし本」ベストセラー

2022-05-14

金丸より「田舎暮らし本」ベストセラー

応援ありがとうございます。おかげさまです。
発売同時にＡｍａｚｏｎ『田舎暮らし』ベストセラー１位！

東京から和歌山県田辺市龍神村に家族で移住
金丸弘美の長男・知弘の実践活動が出版。好評です。

『子育て世代のための　快適移住マニュアル
　知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい』

金丸知弘著　出版社：誠文堂新光社
発売日　2022年5月11日　価格　1,760円（定価1600円＋税）
http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/book/boo...

ぜひ図書館へリクエストお願いします。

ＹｏｕＴｕｂｅ金丸知弘移住を語る。配信中。
（パート１）

（パート２）

PDFでも配信中です。大学の講義とリンクしています。
http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/data/yot...

Posted by 事務局 at [会員活動紹介]

コメント

一言どうぞ

このアイテムは閲覧専用です。コメントの投稿、投票はできません。

Referer

Syndication: RSS 2.0 , Atom

さまざまな分野で活躍する
全国会員デジタル名簿
Click!

Contents

トップページ
ライターズネットワークとは
会則
役員一覧
入会をご希望の方へ
会員活動紹介
ニュース
セミナー告知
セミナー報告
メールマガジン購入案内
ライターズネットワーク大賞
リンク集
出版事情録・ライター探し
お問い合わせ

最新記事

検索キーワード 検索

コメント

☆●WAN＝ウーメンズアクションネットワーク（上野千鶴子理事長）「女の本屋」で紹介。
https://wan.or.jp/article/show/10091#gsc.tab=0

views 425

金丸知弘・著『子育て世代のための 快適移住マニュアル：知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい』　これからの子育てに不安を感じていたり、田舎移住に興味がある人はいますぐ読んで◆金丸知弘

2022.05.25 Wed

バスも電車も私にとっては利便性が悪く嫌いでした。それなのに東京は、物価も地価も高い。収入と人生にかかる減価率を考えると利益率が悪すぎます。私は、将来田舎へと移住することを考えて全国の道府県を視察しに行き、考えた末に和歌山県に移住しました。とても快適で気に入っています。家は2階建て4LDKで、一階8畳半あり、家賃は月2万5千円です。リビングからは山々の景色が広がります。ネットで買い物をすれば次の日の朝には届きます。

本書では、さまざまな他府県から移住してきて生活を送っている介護士の方やネット物販をする方、美容師、弁護士など他業種の人達も紹介しています。田舎に仕事がないというのは嘘です。実際は人口減少でどこも人手が足りません。

また、支出が少なく生産原価を抑えられ、商売を始めればライバルがおらず独占市場となりうる田舎という地域は、非常にポテンシャルが高いと私は考えます。

東京に住んでる方と上京していく人たちにはぜひ知っておいてほしい、気がついてほしいことがあります。それは保育園事情です。東京や大阪などの都市部に行き、結婚して子供を産んでから待機児童問題に悩まされる人達がたくさんいます。しかし、これはもう何十年も前からずっとそうなのです。いま初めて起きた現象ではないのです。子供が生まれてから待機児童問題に物申しても意味がないのです。解決される前に子供は大きくなってしまいます。日本全体の人口が減少し、田舎の学校が閉鎖し、過疎化が進む地域が増える一方で、都心の保育園を増やして、都心のみ保育士や介護士の給料を増やしほしいというお願いを期待しても待つだけ無駄です。東京は日本で最もお金が必要な地域で、保育園が空いてないのは誰もが知っているはずです。実は田舎の保育園は東京の保育園と金額が大きく異なり、料金が激安です。そのうえがらせき、田舎では、出産するたびに出産祝い金をくれたり、子供が高校生になるまで様々な支援をしてくれる地域もあります。

田舎では保育士や介護士の給料で子育てをしながら豊な生活が送れ、子供も預けることができるのです。

◆書誌データ
書名　：子育て世代のための 快適移住マニュアル：知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい
著者　：金丸 知弘
頁数　：223頁
刊行日：2022/5/11
出版社：誠文堂新光社
定価　：1760円（税込）

子育て世代のための 快適移住マニュアル：知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい
著者：金丸 知弘
Amazonで買う　2/05/11)

カテゴリー：書評・編集者からの紹介
タグ：くらし・生活 / 子育て・教育 / 本

クリップ　シェアする 0　Tweet

女の本屋のトップに戻る

D-wan
ミニコミ図書館
寄付をする
クレジットカードでも寄付できます
WAN女性学ジャーナル
皆さんからの投稿募集中!!
> WANサイトについて
About WAN
關於 WAN
关于WAN
WAN대해
Sobre WAN
認定NPO法人
WANについて
ウィメンズアクションネットワーク
アーカイブ検索（試験中）
Google 検索
認定NPO法人WAN
会員募集中
× Fund
WAN基金
当サイトの対応ブラウザについて
年会費を支払う
paypalでも支払いが可能です
女性のアクションを、動画にして発信しよう!
くわしくはこちらから
撮影方法からアップロードまで動画で解説!
バナー広告
募集中!
バナー広告を掲載してくださる広告主さまを募集致します。

●「ＴＵＲＮＳ」（第一ブログレス）（第５２号）https://turns.jp/
書評欄

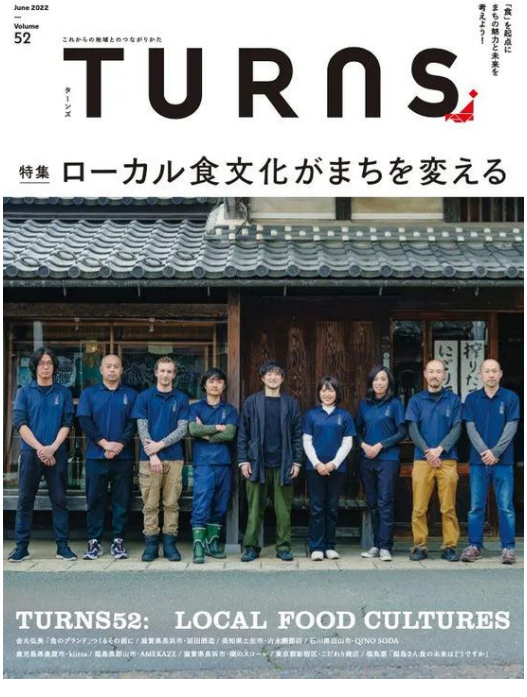
地域選び、教育、マネー事情……
子育て世代必読の移住マニュアル本が発売に

今号(P14～)に登場した金丸弘美さんの長男で「CONSERVA」のオーナーである金丸知弘さんの新著が発売に。コロナ禍で働き方や暮らし方を見つめ直し、移住をする人も増えている昨今。実際に移住してみたら地域になじめなかったり、子どもの学校が廃校になったりと、困りごとが見えてくるパターンもあるという。そこで、著者自身が経験した、東京から和歌山への移住をもとに移住を成功させるためのアドバイスを語る。

第1章では金丸さんが移住先を決めるまでのエピソード、第2章では、移住前に知っておきたいあれこれをピックアップ。第3章は気になる手続きやお金事情について解説。家探しや子どもの教育についても、著者の体験を踏まえた「失敗しないヒント」が盛りだくさん。移住を検討中の子育て世代は必読の移住マニュアルだ。

〈著　者〉金丸 知弘
東京都出身。食品の加工・販売を行う「CONSERVA」オーナー、一棟貸し宿小家御殿オーナー、賃貸不動産経営、フリマアプリ活用アドバイザーなど活動は多岐に渡る。地域経済・食環境ジャーナリストとして、食や地域の専門誌で執筆活動も行っている。2016年和歌山県に移住。

詳細
「子育て世代のための　快適移住マニュアル
－知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい－」
金丸 知弘　著
誠文堂新光社　1,600円＋税（2022年5月11日発売予定）



●インターネットジャーナル㈱ フードボイス（fv1.jp）

https://fv1.jp/81677/

「子育て世代のための 快適移住マニュアル」金丸知弘著

2022/04/28　執筆者：編集部

「子育て世代のための 快適移住マニュアル」（金丸知弘著）。コロナ以降、働き方を変えたい、田舎暮らしをしたいと考える人が増えています。しかし、実際に移住してみると、古い家のリフォームに想定以上にお金がかかったり、仕事がうまくいかなかったり、地域になじめなかったり、過疎化で子供の学校が廃校になったりと、想像していた田舎暮らしとは異なる場合がよくあり、夢やぶれて都会に舞い戻る家族もいるようです。移住で失敗しないためにどうすればいいか。実際に東京から和歌山に移住した料理人の著者が、移住地を選ぶまでの経緯から、家探し、引っ越し、役場や地域の人とのコミュニケーション、子供の教育、お金のことまで、どんな情報や行動が重要かを伝えます。移住地を決めるまでにチェックしておきたい項目、自分の性格や生活スタイルの見直し方、自治体への相談のしかた、補助金や教育の情報の獲得、地域の人とのコミュニケーション・おつきあいのしかたまで、経験談と項目ごとのマニュアル形式でご紹介します。本書を参考に移住を検討・行動すれば、失敗しない、豊かな田舎暮らしを手に入れることができるでしょう。誠文堂新光社　定価：1,760円（1,600円＋税）、判型：四六。金丸 知弘氏1988年生まれ。東京都出身、和歌山県田辺市在住。カフェ、食品の加工・販売を行うCONSERVAオーナー、一棟貸し宿小家御殿オーナー、フリマアプリ活用アドバイザー。国内のリストランテでイタリア料理の基本を学んだ後、北イタリアピエモンテにある料理研修機関「i.c.i.f」へ留学。マスターコースを経てミシュラン一つ星のリストランテ「Guido da Costigliole」に勤務。帰国後、東京ステーションホテル「エノテカノリーオ （Enoteca NORIO）」に勤務。2016年和歌山県へ移住。

●「月刊 NOSAI」２０２２年６月号　（公益社団法人全国農業共済協会＝ＮＯＳＡＩ協会）

自著自薦

食環境・地域経済ジャーナリスト
金丸　知弘

『子育て世代のための 快適移住マニュアル』

知っておきたい、田舎でできる仕事・
お金・子育て・地域のおつきあい

誠文堂新光社
四六判224ページ
定価：1,760円（消費税含む）

当時27歳だった私は、2016年に妻と娘と３人で東京都目黒から和歌山県田辺市龍神村へと移住しました。人混み、臭い空気、どこでも列に並び、バスも電車も私にとって利便性が悪く嫌いです。それなのに物価も地価も高い。収入と人生にかかる減価率を考えると利益率が悪すぎます。世田谷で生まれ育った私は幼い頃から東京がそんなに好きではありませんでした。将来地方の田舎へと移住することを考えて全国の都道府県を視察に行って、考えた末に和歌山県に移住することを決めました。とても快適で気に入っています。家は２階建て４LDKで、リビングは１間８畳平あって家賃は月２万５千円です。リビングからは山々の景色が広がります。家の近くに中古物件を購入して一棟貸しの宿も始めました。漫画サザエさんに出てくるような平家の瓦葺屋根の家です。コロナ流行以降需要が増して安定的に集客できています。週３～５日で仕事をして年収は500万円です。

田舎への移住は若者を中心に近年増えつつあります。1996年以降、東京では26年ぶりに人口が減少しました。一方で思い描いていた田舎移住とは違い、失敗し都心に戻る人たちもいます。

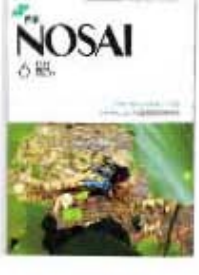
そんなこれから移住を考えている人たちや、興味がある人たちのために苦労や失敗をしないように自分たちの生活を赤裸々に紹介し、移住後にかかる生活費や移住にかかるお金のことなどをマニュアル形式で順序立ててまとめました。引っ越しや家探し、地域での付き合い、子供の教育、補助金の申請はどうするのか。

そして、さまざまな他にも他府県から移住して快適な生活を送っている介護士の方やネット物販をしている方、美容師、弁護士の方々なども紹介しています。

田舎に仕事がないというのは嘘です。実際は人口減少でどこも人手が足りません。

また、支出が少なく生産原価を抑えられ、商売を始めればライバルがおらず独占市場となりうる田舎という地域は、非常にポテンシャルが高いと私は考えます。

誠文堂新光社　〒113－0033　東京都文京区本郷３－３－11　IP台御茶ノ水ビル
TEL：03－5800－5780　URL：https://www.seibundo-shinkosha.net/



●A-Girl Creative/農と食女性協会/（公）日本フードスペシャリスト協会
伊藤淳子ブログ https://ameblo.jp/shibuya1/entry-12745172922.html

【書籍】移住・定住、和歌山暮らしの参考書。鎌倉暮らしも参考に。

2022-05-28

Pick PR

テーマ：田舎暮らし

日本全国を飛び回っている食環境プロデューサーの金丸弘美さんから
メールが届きました。
息子さんの金丸知弘さんが、和歌山県田辺市に移住。
その体験が本になったとのこと。

『子育て世代のための　快適移住マニュアル
　知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい』

子育て世代のための 快適移住マニュアル 知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域…

楽天市場

1,760円

世田谷育ちで、中学から鹿児島県大島郡徳之島で自然環境に触れて暮らしたのち、
自転車で日本一周、イタリア料理店で修業を積むなど、
お父さんに負けず劣らず食に精通している息子さん。
食のスキルがあるだけに、田舎は宝の山！！！
奥さんの本音や、移住のための補助金情報といったコラム的な内容も参考になりますし、
自分に向いている移住やいろいろなパターンの事例も紹介されています。
子育て中の家族のための学校や学習、就業などのアドバイスも役にたつ内容満載で、
まさに教科書（マニュアル）としてのベストセラーになったこともうなずけます。
（そしてなにより写真がきれい）

古民家を改修してカフェ、いいですよね。

コラムにある「持ちよりホームパーティ」、世田谷でも鎌倉でもやっています。
集まることから、交流は始まるんですよね。

鎌倉のひなびたエリアに移住しかけている私。
日当たりのいい相当広い２LDKがたった７万円（駐車場つき）という物件が空いておりますが、
そんなエリアで毎月マルシェをやったり、イベントをやったりして、
もう、これは本格的に移住しかないかとか思う今日このごろ。
6月８日の十二所マルシェでは、大江広元つながりの山形県寒河江市のさくらんぼ農家さん
さくらんぼジャパンのさくらんぼ（連呼してますね）の詰め放題！！予定しております。

十二所マルシェはご近所のみなさまとのつながりづくりが目的。
おかげさまで、十二所ちとせ会（老人会）のご協力をいただき、
町内会やこども会、社会福祉協議会などのみなさまともご縁が広がっています。

地域の人が集まる場所から地域の輪が広がるって、楽しいですよね。

『庭に小さなカフェをつくったら、みんなの居場所になった。つなげる×つながるごちゃまぜカフェ』
という本も、同じような活動をしている事例で参考になりました。

庭に小さなカフェをつくったら、みんなの居場所になった。つなげる×つながるごちゃまぜ…

単文庫版

1,760円

「紀伊民報」２０２２年６月４日号　インタビュー

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

龍神村の金丸さん

子育て世代の移住に

体験基に「手引書」出版

田辺市龍神村小家で食品加工販売業を手がける金丸知弘さん（33）がこのほど、田舎暮らしや移住を考えている人の手引書となる「子育て世代のための快適移住マニュアル」（四六判、224ページ、1760円）を発売、学研プラス社から出版した。

金丸さんは東京都世田谷区出身、目黒区出身の妻と娘の3人で2016年3月に小家に移住した。ジャムなどの加工販売業の傍ら、一棟貸し宿「小家街道」のオーナーやフリマアプリ活用アドバイザーも務めるなど精力的に活動の幅を広げている。

△「子育て世代のための快適移住マニュアル」を手にする著者の金丸知弘さん（田辺市龍神村小家で）

「快適移住マニュアル」は1章「わたしの快適移住ライフ」、2章「移住前に知っておきたいこと」、3章「失敗しない移住の手続きとお金」、4章「田舎暮らしを楽しむ達人たち」で構成している。巻頭の「はじめに」で、小さい頃に父や母方の祖母が生まれた佐賀県唐津市や鹿児島県の徳之島で過ごした時の思い出、料理学校で学んだり研修生としてレストランで働いたりしたイタリア留学時に感じたことなどを織り交ぜ、自身の生い立ちを紹介。「田舎に住み、田舎で仕事をしたい」と確信するようになった経緯を説明している。

1～3章は、自身の性格や生活スタイルの見直し方、自治体への相談の仕方、補助金や教育の情報の収集、地域の人とのコミュニケーション・付き合い方までを、著者の経験談と項目ごとのマニュアル形式で紹介。田舎暮らし希望者の不安や疑問に極力、分かりやすく応えている。巻末には移住関連の情報サイトも載せている。

金丸さんは「移住希望者だけでなく、できれば行政の方や地域の子どもたちも見ていただきたい。移住希望者が不便や不安に感じていることに応えていけるようにするためにも、行政の方にはある程度、不動産に関する知識を持っていただければと思う。また、この本が子どもたちにとって田舎の素晴らしさを再認識するきっかけになればとも願っている」と話している。

△「薬膳講食」のメンバー（2月、みなべ町筒砂地区で）

気仙沼のアグリセンターと神戸市の神果神戸青果とをオンラインでつなぎ、神戸市などに食べてもらうことを西農協梅」を使ったおにぎりを西民14年11月、町発祥の「南高

ロゴマークできる

紀州体験交流ゆめ倶楽部

御坊・日高の体験型観光を統括する「紀州体験交流ゆめ倶楽部」のロゴマークができた。

ゆめ倶楽部は昨年度から活動を開始、管内の教育旅行を中心とした体験型観光の受け入れ窓口となり、営業活動をしている。

ロゴマークは、ゆめ倶楽部が力を入れている民泊を象徴するデザインで、家の形をモチーフにしている。屋根部分は「山」、7本の縦線は「川」、周囲の縁線で「海」を表現した。1市6町が一体となり活動していることと、人や物を受け入れていきたいという願いも込めたという。

基本のロゴマークに関するローマ字で組織名を入れたものも作成。パンフレットやタックフのユニホーム、名刺などに使用し、公式ホームページなどウェブでも使っていく。

ゆめ倶楽部は「ロゴマークは見方によっては笑顔にも

「読売新聞」２０２２年７月１０日

り、災害下の出動を想定し　（講談社、1980円）（中）

記者が選ぶ

子育て世代のための快適移住マニュアル

金丸知弘著

リモートワークの広がりもあり、関心が高まっている地方への移住。東京育ちの著者は、地域おこしに関する多数の著作で知られる父・弘美氏の影響もあり、子どもの頃から田舎暮らしに憧れていたという。

イタリア留学や料理人を経て、全く縁のなかった和歌山県の山村に妻と中学生の娘と移り住んだのは６年前。地域の産物を使った食品の製造販売や民家を改装した一棟貸しの「宿」の運営などを、コロナ禍の中で軌道に乗せていく姿はたくましい。都会の人間関係に疲れて地方移住を目指すのはお勧めできず、人付き合いの濃さこそ田舎暮らしの醍醐味という著者の指摘に納得した。（誠文堂新光社、1760円）　（由）

「食料新聞」２０２２年６月１１日

書籍紹介

田舎への移住マニュアル

失敗しない豊かな田舎暮らしとは

子育て世代のための快適移住マニュアル

「子育て世代のための快適移住マニュアル」（金丸知弘著、四六判224ページ、1760円税込、誠文堂新光社刊）は、知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあいをテーマに、東京から和歌山県へ移住した著者・金丸知弘氏が、失敗しない移住方法を伝授するマニュアル本である。

コロナ以降、働き方を変えたい、田舎暮らしをしたいと考える人が増えている。しかし、実際に移住してみると古い家のリフォームに想定以上にお金がかかったり、仕事がうまくいかなかったり、地域になじめなかったり、過疎化で子供の学校が廃校になったりと、想像していた田舎暮らしとは異なる場合がよくあり、夢破れて都会に舞い戻る家族もいるようだ。

移住で失敗しないためにどうすればいいか。実際に東京から和歌山に移住した著者の金丸氏は、イタリアのミシュラン一つ星リストランテに勤務経験がある料理人。移住地を選ぶまでの経緯から、家探し、引っ越し、役場や地域の人とのコミュニケーション、子供の教育、お金のことまで、どんな情報や行動が重要かを伝える。

移住地を決めるまでにチェックしておきたい項目、自分の性格や生活スタイルの見直し方、自治体への相談のしかた、補助金や教育の情報の獲得、地域の人とのコミュニケーション・おつきあいの仕方まで、経験談と項目ごとのマニュアル形式で紹介している。本書を参考に移住を検討・行動すれば、失敗しない、豊かな田舎暮らしを手に入れることができるだろう。

【金丸知弘（カナマル　トモヒロ）氏の略歴】

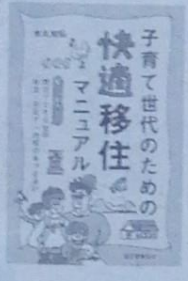
1988年生まれ。東京都出身、和歌山県田辺市在住。カフェ、食品の加工・販売を行うCONSERVAオーナー、一棟貸し宿小家御殿オーナー、フリマアプリ活用アドバイザー。国内のリストランテでイタリア料理の基本を学んだ後、北イタリアピエモンテにある料理研修機関「i. c. i. f」へ留学。マスターコースを経てミシュラン一つ星のリストランテ「Guido da Costigliole」に勤務。帰国後、東京ステーションホテル「エノテカ ノリーオ（Enoteca NORIO）」に勤務。2016年和歌山県へ移住。

「日刊ゲンダイ」２０２２年6月14日

今日の新刊

子育て世代のための快適移住マニュアル

金丸 知弘著



著者は子どもの頃、父の仕事のため、祖母の生まれ故郷の徳之島に移住。まるで異国に来たような経験をしたが、中学卒業後、東京に戻った。イタリアの料理学校に留学し、大きなテーブルにたくさんの料理が並ぶような暮らしに憧れて、田舎暮らしを目指す。

目黒区に住んでいた著者は「ふるさと回帰支援センター」和歌山県の担当者に出会い、田辺市龍神村の「アトリエ龍神の家」に住むことに。それはさまざまな分野のアーティストを招いて活動してもらうことを狙った自治体のプロジェクトだった。そこでカフェを経営しながら一戸建ての民家を購入、「一棟貸し宿小家御殿」を開業する。

移住の手続きやお金、地域の付き合いまで、一家で地方に移住した著者による実践的体験談。

（誠文堂新光社　１７６０円）

（飛鳥新社　１５４０円）

TBS RADIO
2022.06.21
火曜日 06:30
食環境・地域経済ジャーナリストの 金丸知弘さんご出演～うるおい生活講座～
生島ヒロシのおはよう定食｜一直線

“聴くスポーツ新聞”TBS ラジオで放送中の「生島ヒロシのおはよう一直線」(毎週月曜～金曜の朝 5 時 30 分～6 時 30 分）ニュース、スポーツ、そして健康、シニアライフ、介護などをキーワードに生島ヒロシがわかりやすく、元気に様々な情報をお伝えしています！
毎週月～金曜日の 5 時 45 分頃からは、日替わりでお送りする「うるおい生活講座」
今朝は・・・食環境・地域経済ジャーナリストの 金丸知弘さんが登場！
今朝は「子育て世代のための移住を考える」と題してお話を伺いました。
詳しくは radiko のタイムフリーでお聴きください！
●朝 5 時 00 分～5 時 30 分は「生島ヒロシのおはよう定食」（TBS ラジオのみ）
●朝 5 時 30 分～6 時 30 分は「生島ヒロシのおはよう一直線」（全国 33 局ネット）
周波数 AM954kHz、FM90.5MHz。PC やスマホでは radiko でも聴取可能
番組へのメッセージは ohayou@tbs.co.jp まで
「radiko タイムフリーで聴く」で 放送をお聴きいただけます（放送後 1 週間まで/首都圏エリア無料）

radiko タイムフリーで聴く

「地域人」（大正大学）。2022 年 8 4 号「神奈川県特集」

「https://chiikijin.chikouken.org/

book review

文●佐藤壮広
撮影●島崎信一

転職して家族で移住、地方暮らし 実行前に知っておきたいこと

子育て世代のための快適移住マニュアル
金丸知弘 著
誠文堂新光社
2022年5月
●1,760円
（本体1,600円+税10%）

一読して参考になる田舎暮らし・移住に関する本や情報はないものか。その期待に応えてくれるのが本書だ。著者は、イタリアで料理の修業を積み、現在は和歌山の田辺市でカフェや貸宿の経営、ジャムの製造・販売など多方面の事業を手掛ける、いわば移住生活のエキスパートである。少年時代に「いつかは大きなテーブルにたくさんの料理を並べられるような家に住もう」と夢を抱き、それを実現している。

本書の第2章に田舎暮らしへの「移住適応度チェック」がある。項目は「電車・バス通勤がつらい」「子育ては自然豊かな環境の良い場所で」「DIY、日曜大工が好きだ」「人と接するのが好き」などである。これらをチェックすれば、移住についての自身の向き・不向きを測ることもできる。

第3章「失敗しない移住の手続きとお金」では、移住の準備についての具体的なアドバイスがあり、移住計画の後押しをしてくれる。ここには「移住前に確認しておくことチェックシート」が付いている。「災害時の被害想定区域等を調べる」「会社勤めのうちにクレジットカードの限度額を最大まで上げておく」などは、言われなければ見落としそうな項目だ。

第4章では、美容師、弁護士、ゲストハウス運営など、田辺市への移住者たちの実例や、多様な地域創生の現場を知ることができる。

移住計画を実現させるための経験談と事務的なアドバイスも盛り込まれた、子育て世代に向けた田舎暮らしのススメ。

「学校の食事」（学校食事研究会）２０２２年７月号

子育て世代のための快適移住マニュアル

金丸 知弘 著

株式会社 誠文堂新光社 発行

コロナ禍で、働き方改革や里山暮らしを考える人が増加した。しかし実際の移住には予想以上に負担がかかり、お金や仕事で苦労したり、地域に溶け込めなかったり、過疎化で近隣の学校がなくなったりと、想像していた田舎暮らしとは異なり、夢を諦めて都会に戻る方も少なからずいるようだ。本書では、実際に東京から和歌山に移住した料理人の著者が、移住で失敗しないためのポイントを解説する。移住地選定の経緯、家探し、引越し、自治体や地域の人とのコミュニケーション、子どもの教育、お金のことまで、すぐに役立つ情報が満載。移住地決定までのチェック項目、自分の性格や生活スタイルのリバイスから、役場への相談方法、補助金や教育情報の取得、地域の人とのコミュニケーションまで、経験談と重ねて項目ごとにマニュアル形式で紹介されている。本書を参考に移住を検討・実行すれば、失敗しない、豊かな田舎暮らしを手に入れられること請け合いだ。

「学校給食」（全国学校給食協会）２０２２年７月号

①

『子育て世代のための快適移住マニュアル』

金丸知弘 著

四六判
224ページ
定価1,760円（税込）
誠文堂新光社

2名様

著者の金丸知弘氏は、東京都世田谷区出身。子どものころから東京での暮らしがあまり好きではなく、毎年訪れていた佐賀県唐津市の祖母の家や、中学生の時に移り住んだ鹿児島県徳之島での生活、イタリア留学での経験から、田舎に住んで、そこで仕事がしたいと確信したそう。

そして、コロナ禍の前となる2016年に、東京都目黒区から和歌山県田辺市に家族３人で移住。リストランテ勤務の経験を生かし、地域でとれる果物を使ったジャムなど食品の加工・販売をはじめ、一棟貸し宿「小家御殿」の経営、フリマアプリでの不用品販売などで生計を立て、田舎暮らしを楽しんでいます。

本書では、“マニュアル”の名の通り、移住地を決めるまでの経緯から、家探し、引っ越し、仕事、子どもの教育、地域の人とのコミュニケーションなど、自身の経験を基に詳しく解説。田舎暮らしの良いところだけではなく、不便なことや困りごと、移住にかかる費用など、田舎暮らしのリアルを伝えています。

移住に興味のある方は、本書の「移住適応度チェック」を確認してみるといいかもしれません。また、田舎暮らしに向かない人や田舎に対する勘違いについても指摘しており、移住を失敗しないための心構えを伝授してくれます。移住を考えている方にはもちろん、子育て世代の方にとっても一読の価値ありです。

BOOK

ISSN 1882-814C Vol.72 No.800

こころとからだのけんこう 学校給食 7 July 2021 Vol.72 No.800

●特集

創刊800号記念 給食の昔と今

「社会新報」２０２２年６月２９日号

●『子育て世代のための快適移住マニュアル』

地方移住の背中を押す

▽金丸知弘／著　誠文堂新光社　1600円＋税

都市部から地方に移住する人が増えている。コロナ禍後、その流れは加速しているらしい。だが移住したくても全く違う環境で果たして生活していけるのかと思うと、二の足を踏む人も多いはずだ。

この本は、題名のとおりに、そんな人たちのために書かれた非常に具体的な「移住マニュアル」である。移住先を選ぶ上でのポイントから、補助金などの手続き、移住先での仕事など、具体的に詳細に、そして自らの経験を踏まえて説明してくれる。

著者は1988年生まれの34歳。自らも6年前に和歌山県の山村に家族で移住し、カフェや食品加工、一棟貸しの宿などを経営している。

本書では、大阪から故郷の村に戻り、おしゃれで、しかもお客さんの送迎もする美容室を開いた人など、胸躍る成功例も紹介されている。「物事を合理的に考えて、先進的なツールを好んで使える人」ならきっと地方移住はうまく行く、と背中を押してくれる。

ちなみに著者の父は『月刊社会民主』で「地域力・地域力創造」を連載している金丸弘美さん。日本全国の地域起こしを紹介しているこの連載も、移住生活の参考になるだろう。　（高木明）

」

「味の味」（アイディア）２０２２年８月号

地食がおもしろい 92

子どもたちの未来を綴るキルト展

金丸弘美
食総合プロデューサー

パッチワーク・キルト作家の山口怜子先生から嬉しい電話をいただいた。10月23日から11月13日まで福岡県久留米市北野町今山の天保3年（1832年）創業「山口酒造場」の30部屋もあったという母屋を繋いだホールでのキルト展、同時に、山口酒造場の庭、菅原道真公の分霊を祀った北野天満宮境内と参道から鳥居まで約1キロメートルを舞台に、大分県玖珠町、日田市、福岡県吉井町、久留米市、大川市、柳川市の筑後川流域143㎞のお母さんや子供たちの手づくりのオーガニック食が並ぶ約70店舗のマルシェを開催。伝統的な家屋や地域の食、そこにキルトが展示されるという。

キルトの前に座った山口怜子先生。素材は実家の古着

写真：Suzu（Fresco）

怜子先生とお会いしたのは2002年。イタリア・ピエモンテ州トリノで行われたスローフードの祭典「サローネ・デル・グスト」の世界各地の地域の食を大切にする人々の表彰式、会場はオペラハウス。招かれた人は民族衣装で登場するという洒落た趣向だった。

怜子先生が、国内外でも知られたキルト作家ということを帰国して知ることとなる。実は、私の故郷・佐賀県唐津市の親戚や知人はとつくに怜子先生を存じあげていた。亡き母も、従妹も、高校の先輩も、怜子先生のキルト展には足を運んでいて大ファンであった。

そのあとケーブルテレビのロケで、山口酒造場で行われた怜子先生のキルト作品の特集を組ませていただくこととなるのだが、森や山や四季の輝きや暮らしが編みこまれたような色合いの多彩さ、造形の素晴らしさに圧倒されたのだった。重厚な建物の建築物と融合し見事に空間そのものが芸術になっている。

今回の催しは、このあと町々を繋いでのキルト展を行っていく予定という。

「流域の有形文化財が7～8軒ある。そこでキルト展を行い流域の子供たちを応援しましょうというものなんです。それは。これまで家の空いた部屋を、子どもたちが気軽に寄れる場にしていた。すると悩みを抱える子供が多いとわかった。だから子供たちの話を聞いてあげる場が必要だと思ったの。一人住まいの高齢の女性の空き部屋に子供たちのコミュニケーションの場を創りたい」と怜子さん。続けて、

「活動は4年目になります。『家族を綴る日本キルト55周年』というタイトル。流域を綴る、と同じ意味ととってくださいと言っている。地域の活性化になればありがたいなと思っている。親子のコミュニケーションを創る場所。女性たちが子供たちを守るという約束。2年間地域に足を運び人々と話をしてきました。子供たちを楽しませる流域にしたい。それ京願いです。流域の子供たちを育てよう、お父さんお母さんが頑張っているから、将来子供たちが戻って来れるような場にしようと立ち上がった。『パンの美美』基金といいます」

怜子先生は、1944年生まれ。実に若々しい。大分県日田郡大山町（現日田市）出身、お父さんは大山町長や大山町農協組合長を務めた矢幡治美さん。大山町は、1村1品運動で知られた所。梅、キノコを始め、村の産物を上手く生かし、加工・直売、レストラン運営、農村の観光と、中山間地の地域経済と雇用の場を創出したところだ。

怜子さんは22歳の時に山口酒造場に嫁いだ。そこで蔵にあった古着を使った布のパッチワークを始めることとなる。これがアメリカから来た方の目にとまり、海外での個展と賞の受賞、そして国内の巡回展示会や出版へと繋がることとなる。

怜子さんは17年前にご主人をなくされ、山口酒造場は、現在、御子息が引き継がれている。

25年前に大分県玖珠郡九重町にキルトを教える「地蔵原ヴィレッジ」を作り、それが発展して4軒の宿泊と食事もできる建物が建っている。長崎、佐賀、福岡、熊本の棟梁に依頼し、それぞれの特徴を出したもの。

また1986年からは地熱を有用した食の研究を始め、2004年に「地熱たべもの研究所」を熊本県小国町・岳ノ湯に作られた。四季の素材を活かし無添加でいただける食だ。

右端「うぐいす」のラベルには、「一村一品の父とその孫との夢の結実である」と書かれている

「嫁いだとき蔵男の食事を何年もやった。朝昼晩、夜食まで。味噌、醤油、梅十し、梅酒、甘酒、塩麹。発酵食品すべて手作りし料理を作っていた。若くて頑張っているからと近所の方々の家庭菜園の野菜の差し入れでずいぶん助かりました。季節のものしか出さなかった」

その事が現在の食の研究に繋がっている。食もキルトも原点は両親にあるとも。

「父（矢幡治美さん）が発酵を試そうと、お茶やお酒も造ったり、ヤギの乳を飲まされたり、兄弟5人とも病気なしで育った。風邪もひかない。古くなった衣服も母が大事にとっておいてくれ、それでパッチワークもできた。今、活きている。衣食住を楽しんでいる山口怜子と言ってください（笑）」

怜子先生から極上のお酒が届いた。手書きの解説が添えられていた。

「大山町の梅100％を使ったリキュール『うぐいす』。ジュース替わりに美容のために飲んでます『鶯印のどぶろく』。無化学で酒米をお願いした農家さんのすさまじい根性の作品です『庭の鶯nine純米吟醸60°』」

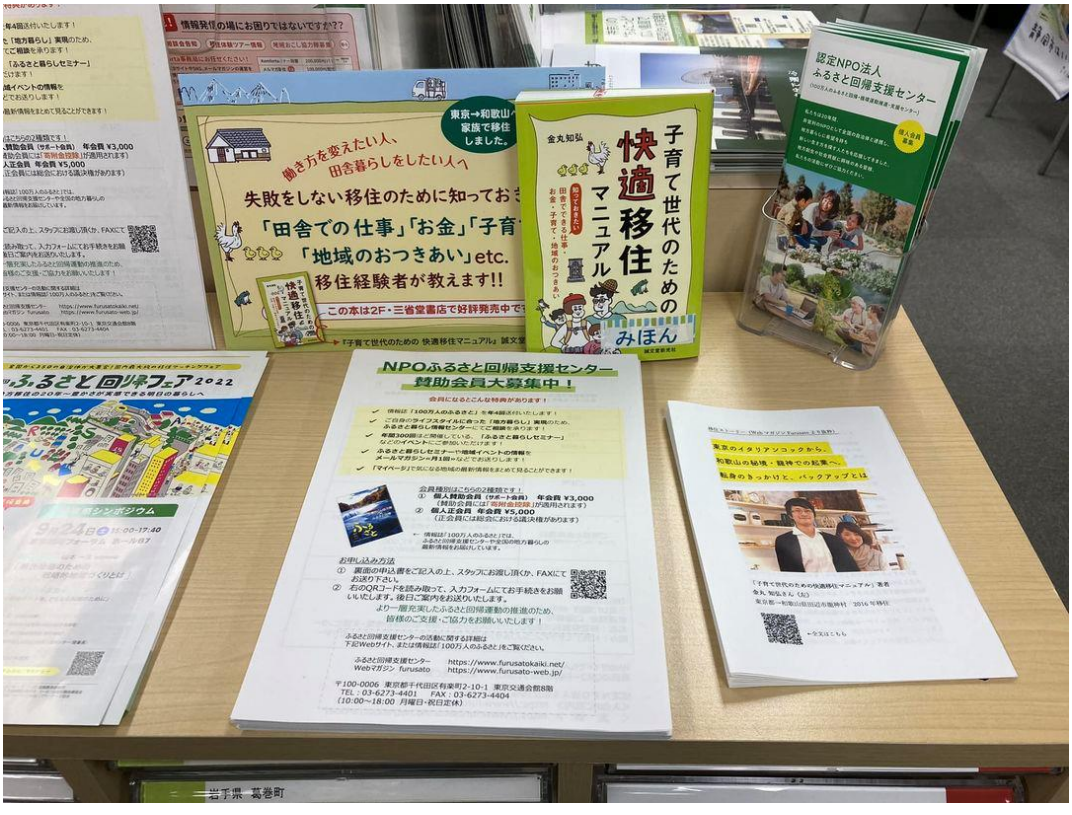
どれも味わいと思いのこもった最上の作品であったことは言うまでもない。

金丸弘美さんのご長男の本『子育て世代のための快適移住マニュアル』金丸知弘著［誠文堂新光社］＊好評発売中です

「味の味」（アイディア）２０２２年８月号（金丸弘美がエッセイを隔月で連載中）

有楽町交通会館地下１階の和歌山県「わかやま紀州館」（2022 年 6 月１５日）

有楽町・交通会館８階「認定法人 NPO ふるさと回帰支援センター」
１階の三省堂書店で本が発売中と案内されている。



●2022-07-15　富山テレビニュース・ライブ BBT で長男・金丸知弘と著作「子育て世代のための快適移住マニュアル」が紹介。